

女子野球に対する意識調査

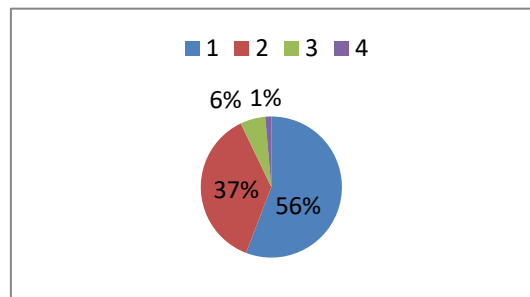
(2022/12/26～2023/01/05間においてアンケート実施)

連盟	計	北海道	東北	関東	信越	東海	関西	九州
チーム数	547	34	61	205	40	47	131	29
回答数	473	32	46	155	33	45	133	29
回収率	86.5%	94.1%	75.4%	75.6%	82.5%	95.7%	100.2%	100.0%

※チーム数は休部などを除く活動チーム数（関西は休部2チームが回答を寄せていただいたことから100%超え）

Q1.女子選手の受け入れ状況をご記入下さい。

①受け入れ経験がある	282
②受け入れ経験はないが、積極的に受け入れたい	187
③受け入れに対して消極的だ	29
④受け入れない	7

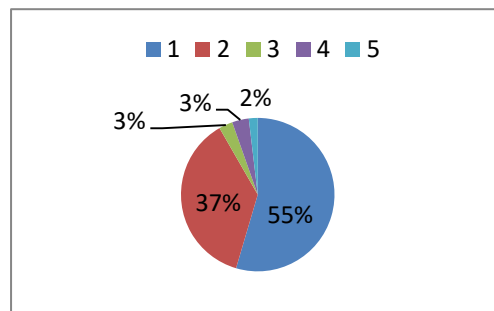


Q2.前問で③④と回答した方は、その理由をご記入下さい。

- 固定観念で体力的・技術的に相違している部分がある。チーム方針で今まで定めていなく、現在も受け入れをしていない。
- チームとしては、現時点では問い合わせが無く、現状では対応が困難であるため。
- 高校野球に向けて始動しており、女子野球まで手がまわらない。
- よほどの選手でなければ体力差がどうしても出てくる為、練習量、質共に考慮は必要となってきます。募集が有れば受け入れはしますが、積極的に女子の受け入れ出来る様な検討は必要です
- 中学生にもなると男女の体力差が大きくなるため、同様練習が出来ない場合が生じて別メニューを必要とし、それこそ男女平等の世の中の風潮に合わない為。
- 指導者の中に女子を指導した経験者がいないため、前向きに受け入れる思いは消極的。練習環境の中で設備等、女子の対応を考えていく必要がある。
- チームの方針です。
- 受け入れ設備無し。遠征対応難しい
- 施設面整わず。メンタルケアも問題
- 心身的に受け入れが難しい時期なので…
- 体力差でケガ心配。思春期特有の問題も
- 配慮必要だが人も物も余裕がない

Q3.今後、女子選手の受け入れをどのようにお考えですか。

①男子同様に募集し受け入れたい	263
②問い合わせがあれば受け入れる	179
③現時点で不可能であるが、今後前向きに検討したい	14
④消極的であるが、これから検討していきたい	17
⑤受け入れない	9



Q4.ご意見ご質問、または委員会への要望があればご記入下さい。

➤女子選手の受け入れについては、積極的に進められない。理由としては、過去の経験から、成長過程において体力や筋力などで男女の違いがハッキリし、公式戦などでの出場機会は減少することが考えられる。少しでも試合経験ができる女子だけのチームに入団したほうが良いと思っています。

➤各地域においては軟式ではあるがクラブチーム設立の動きが活発に行われている。今後において女子高校野球部活が活発になり必要性が高まれば必然的に中学女子硬式野球というソースも求められてくるはずである。求められ必要とされたとき必然性として要求はできるものである。現在の活動出考えると、トイレ・更衣室などのハード面の整備に問う球団としては不安がある。前のめりに組織として斡旋する方向で動けば逆に各単組
➤地方のチームは遠征も多く女子選手の入団へのハードルが高くなると感じています。ガールズなどへの参加へ助成制度があるとそれもまた宣伝になるのではないかと感じます。

➤具体的募集方法等を積極的に少年野球チームへ照会して行くべきと考えます。

➤女子選手を受け入れたことが無いこともあり、これまでと同じような言葉遣いが出来なくなったり、試合後に着替えさせる場所の配慮が必要になったり、これまでの全く同じような指導は出来なくなるだろうなど、多少不安に思っていることがあります。指導者だけではなく、役員も受講出来るような、野球に限らず、男子選手だけだったチームに女子選手を受け入れるようななった競技団体などから、「女子選手を受け入れるにあたっての注意点」のような題目の講習などがあればいいと思っています。

➤入団生募集では、女子野球の事にも自分の知識の範囲内で説明し入団をお願いしている。上部機関でも女子野球の現状や募集の案内書等を作成し、各チームが勧誘しやすい状況を作って頂けたら良いと思います。

➤野球人口を確保するには検討が必要。指導方法（ガイドライン等）統一し受け入れを明確にする。連盟による支援等のバックアップ体制を確立して欲しい。

➤身体的・精神的な変化への配慮・対応として、女性スタッフの確保が望ましいと考える。

➤野球人口の裾野を広げる意味でも積極的に受け入れるべきだと思います。

➤チームの考えとして、今後の野球界を考えると女子野球の進行発展は最も大切な取り組みと考えております。

➤過去に2名、現在1名在籍しているが、出来れば各学年にいた方が良いと感じている。

➤入団希望者が少ないが、現状のように支部内の女子チームと連携しフォローいただけると幸いです。

➤例年「体験者」は数人いますが、入団には至っていない。一人だと不安・合同女子練習場所が遠い等々の理由が大半。

➤女子野球のパンフレット活用し、積極的にアナウンスはしている。支部各チームへのトーン統一性も図ることも募集入団の近道と思う。

➤学童野球女子（女兒）ではないので着替えやトイレ宿泊遠征での環境が気になる。ヘコタレズ勧誘活動は行っていきます。

➤練習や試合会場に行くのに時間と費用がかかる。女子チーム独自でスポンサーをさがしては。

➤遠征等で個人の費用負担が大きい。連盟で何かできることがあれば人数も増えると思います。

- 進路を含めエイジェックに一任して、5団体統一組織を作った方が良いと思う。
- 女子チームと所属チームと二つのチームに所属することで練習・試合またチーム行事への参加・不参加の判断が難しく、選手と父母で大変苦慮していた。女子選手は一括して女子チームのみの所属にしてもらい、地域の少年野球チームに選手勧誘の手助けをしてもらっては。
- 一つのチームとして考えるべき。チームに所属しなくても女子チームに入れるようにしなければ部員は増えない。
- 練習に対して区別が難しい。特別扱いになってしまう。
- 女子選手が在籍しているチームの女子専用トイレ、更衣室などの具体的な運営方法を知りたい。また、女子選手からの声を聞いてみたい。
- 学童野球選手チームへの積極的な募集が必要だ。
- シニア全体で、受け入れマニュアルなどあったら頂きたい。専門の講師派遣も可能であれば迎え入れたい。
- 女子選手だけでなく、指導者の育成も力を入れるべきだ。
- 女子が硬式野球に対する壁の高さをもっと低くし、手軽にできる環境や受け入れチームをもっと増やし、リトルシニアの女子野球の大会を盛り上げられると良いかと思います
- 学年が上がるたびに、男女の差が顕著に出てきています。同一チーム名における練習内容等に苦慮しております。また成長度合いの差は本人が一番感じているとも聞いております。対応方法などベンチワーク出来るような環境も必要と感じております。
- 幣チームには現在4名の女子選手が在籍しておりますが、連盟チームとの掛け持ち所属の為どうしても諸費用がかさんでしまう状況です。積極的に普及活動していくなら彼女たちにある程度の補助金等をもう少し連盟から出して頂ければ非常に有難いです。お金が掛かるから・・・って理由で硬式に踏み切れない子は出たくないですね。橋渡しになるのは地元チームですので今後も積極的に協力致します。
- 女子の野球挑戦を支援していきたいという気持ちがありますが、前回は対応が不十分で途中で退会させてしまっており、女子の受け入れについては経験のあるチームとの情報交換ができればありがたいです。
- 新一年生の入部が決定しましたが、女子選手の扱いに実績がなく、指導者も正直イメージがなかなかできないことは事実としてあります。ただ昨今の状況を鑑みると希望があればそれを受け入れ、選手の伸びしろを引き出して上げたいと思っています。今まで女子選手を受け入れたチームによる議場の場を設けていただければと思います。苦労してきた点やどのように克服、対応してなどの経験値を色々聞いてみたいです。
- 女子硬式野球チームでの全国大会が開催されるようになり、以前にも増し中学女子硬式野球に対する認知度も増えていることは認識している。今後も同様な大会運営をお願いいたします。
- まだまだ消極的なチームもあるようですが、時代の流れであるように連盟としてももっと支援するように働きかけていかなければならないでしょう。
- 各チームで受け入れに対して、どの様な取り組みを実施しているかの情報共有
- 女子野球の普及のため協力していく思いは強いが、ただちに受け入れるには内部同意を得るためにかなり時間を要す。
- 配慮点など指導者への研修も必要
- 取り組む姿勢など相乗効果に期待
- ローカル大会では不便多いと思う
- 適切な進路指導ができない。遠征多く費用負担大きい
- 女子に限らず野球普及には必要不可欠
- 1人在籍。詳細な活動状況と予定の配信が欲しい
- 過去に在籍。円滑な運営体制が構築できない

- 選手減少。チーム維持のための女子も必要
- 男子と同じ厳しい指導OKなら喜んで受け入れ
- ブロック女子チームを作れば入り易い
- 別行動に周囲の理解が必要
- 女子への浸透、組織として長期計画に取り組む
- SNS等を活用して情報発信し、広く活動を伝えることが大事かと思います。
- 交通費の補助。合同練習等で遠方への移動があるため交通費（ガソリン代等）の補助をお願いしたい。
- 自チームの活動費負担に加えて女子チームの活動費の負担もある。女子チームの人数が少数であり、経済的理由による女子チームへの参加辞退がしにくい雰囲気があることから、改善策をご検討願う。
- 男子、女子、特に関係なく受け入れます。特に女子だからと特別な対応も考えていません。あまり過度に対応しすぎて、経済的な負担を強いる事も控えたほうが良いと感じています。

【概略説明】

- ①年末年始のお忙しい中にも関わらず、当初計画していた回収率80%を超すことができ、現在のリトルニアの女子野球に対する意識を正確に判断できる資料となりました。ご協力ありがとうございます。
- ②Q1.の問いに対し、「受け入れ経験があると回答したチームは56%に達しました。現在の状況から推察すると30%以下を予想していましたが、6割近くのチームが女子選手が在籍した経験を持つということで、②の「受け入れ経験はないが、積極的に受け入れたい」との併せたチーム数は93%に達した事は、将来に向けて大いに勇気づけられる数字となりました。
- ③「受け入れ経験がある」と回答した割合を連盟別にみると、九州連盟が69%と多く、信越連盟0%、東北連盟63%と続いており、5割を割ったのは東海連盟（34%）北海道連盟（48%）となっています。関西Lの躍進が続いていますが、「受け入れに消極的」「受け入れない」は14%と一定数いることから、逆に連盟の活動に注目すべきと考えます。
- ④「受け入れに消極的」「受け入れない」との理由は、チーム方針、施設面、サポート体制、怪我の心配などを挙げられています。
- ⑤Q3.の今後の女子選手の受け入れ体制ですが、「男子同様に募集したい」は55%、「問い合わせがあれば受け入れる」と併せると、92%のチームが可能とし、「今後前向きに検討したい」と併せると95%に達します。
- ⑥ご意見ご質問、委員会への要望については、①費用の補助②トイレ・更衣室等のハード面整備③指導者の育成④情報共有⑤学童野球への勧誘強化⑥広報の充実など多岐にわたります。
- ⑦女子委員会ではこれらを参考に来年度に向けた取り組みとして、広報の充実や各チームの疑問に応えるHowto集的なものの集約に務めていきます。

